

一般部門

一般部門 入選

不妊治療から得たもの

【新潟県・水野かすみ】

数年の不妊治療の末、授かった第一子は、二日以上かかる難産で、帝王切開となった。子どもとは自分でつくり、産むものと思っていた。それが、医師に子どもをつくってもらい、おまけに子どもを取りだしてもらった。親戚中が喜んで連日面会に来る中、就寝前、ひっそりと、新生児室のガラス越しにわが子を見ては、涙が止まらなかった。本当に私は母親なのか？

ある日、一人の看護師さんが、私を後ろからじっと見ていた。不妊治療中からずっと私を見てくれていた看護師さん。後ろを振り向いたと同時に、両手を出してきた。

「私、自分で産めなかった」

主人にも言えず流せなかった涙。看護師さんは何も言わず、両手を握り

「頑張った」「頑張った」

とただ繰り返して、涙を拭いてくれた。

そうして、数年経ち第二子を自然妊娠した。その時、その病院は、もう産婦人科をやめてしまい、私の中ではたくさんの思い出だけが残った。痛い検査や、つらい治療の時に手を握ってくれた看護師さん。妊婦さんと違った待合室へ案内してくれた看護師さん、そして産後の私の涙を受け止めてくれた看護師さんがいた。

もう行くことはもうないかもしれない、川沿いの病院。あの看護師さんたちは今どうしているだろう。お医者さんの技術や患者の我慢だけでは、どうにもならない場面もある。そんな心や痛みのすき間を埋めてくれてありがとう。

最近、小学校のPTAの役員の声が掛かった。子どもを産むだけが親じゃないなあ。どんな大病院でも、有名なお医者さんがいても成り立たないものがある。病院と学校では勝手が違うけど、お医者さんや患者さんをサポートする看護師さんのように、PTA役員も、子どもの心を助けられるのではないか。最近ふと思った。